

【縄文時代後期（約3,500年前）】

- ① 縄文土器・石器が出土しました。
- ② 低地部で貯蔵穴を4基検出しました。下部が広がる袋状の形で、ドングリを水漬けする施設と考えられます。そのうち1基には、多量のドングリが残されていました。
- ③ 貯蔵穴の中には、多くの植物片や甲虫の前翅などが含まれていました。

【平安時代（約900年前）】

低地部で墨書土器が出土しました。近くに公的な施設が所在した可能性があります。

【平安時代～室町時代（約1,000～500年前）】

- ① 区画溝・掘立柱建物・井戸・炉・炭窯などの遺構を検出しました。
- ② 区画溝は、北西方向に軸を持つ2条が28m離れて並行し、その間を直行してつなぐ溝もみつかりました。集落内の一部を区画した溝と考えられます。
- ③ 区画溝より北東側では、掘立柱建物や井戸といった居住にかかわる施設を検出しました。掘立柱建物は柱穴内に礎盤石を持つものですが、規模は不明です。井戸からは廃絶時の祭りに用いられたとみられる呪符木簡が出土しました。
- ④ 区画溝より南西側では炉が検出され、鍛冶などに用いられたと考えられます。
- ⑤ 炭窯を1基検出しました。区画溝に先行してつくられており、鍛冶などに関わる遺構と考えられます。
- ⑥ 低地部で水田を検出しました。多数の畔が1m程の間隔で並行していました。



調査区全景（東から）

しもたきの おくぜ
下滝野・奥瀬遺跡 発掘調査の成果

事業名：令和7年度加東市滝野地域小中一貫校建設工事
調査主体：兵庫県教育委員会
調査担当：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
埋蔵文化財調査部
調査期間：令和7年7月7日～令和7年11月19日（予定）
調査面積：5,968㎡

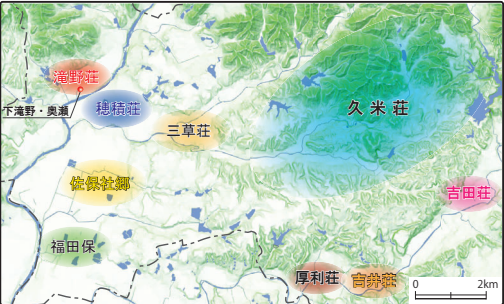
兵庫県教育委員会
(公財)兵庫県まちづくり技術センター
埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町1-1-1
(兵庫県立考古博物館内)
URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>



下滝野・奥瀬遺跡は加古川中流域の右岸の段丘上に立地しています。遺跡の南は加古川の旧河道の低地となっていました。発掘調査では、平安時代～室町時代の集落跡と、低地部のさまざまな時代の生活の跡が発見され、中世荘園である「滝野荘」の中心地のひとつであったことが明らかになりました。

滝野荘とは、現在の滝野地域一帯に所在したとされる荘園であり、摂関家藤原氏（勸学院領）が管轄する荘園として、平安時代ごろ（11世紀）には成立していたと考えられます。中世（平安時代末～鎌倉時代）には下司と呼ばれる荘官職を藤原氏が任官されており、代々藤原氏の氏長者が相続する、いわゆる殿下渡領の一部に属していました。

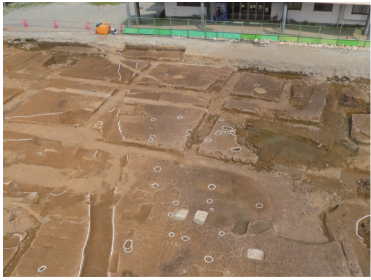
滝野荘に関連する遺跡としては、春日神社周辺に広がる上滝野・宮ノ前遺跡と、下滝野・下ノ山遺跡が挙げられます。宮ノ前遺跡では奈良～平安時代の道路状遺構や多数の墨書土器や硯などが出土しており、役所などの公的施設があったことを示唆しています。下ノ山遺跡では、三面廂付の大型の掘立柱建物が見つかり、公的施設の可能性があります。下滝野・奥瀬遺跡はこれらの遺跡とともに、滝野荘の中心地のひとつであったと考えられます。



- ・滝野荘- 勸学院領（摂関家藤原氏）
- ・穂積荘- 元興寺領
- ・久米荘- 摂津住吉大社領
- ・厚利荘- 近江日吉大社領

◀ 加東市内の主な荘園領

下滝野・奥瀬遺跡周辺の遺跡分布



平安時代～室町時代の区画溝と柱穴群



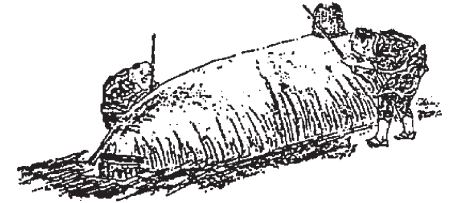
平安時代～室町時代の柱穴で出土した礎盤石



平安時代～室町時代の井戸



平安時代～室町時代の炭窯



炭窯のイメージ

(「佐倉炭図説」『炭窯図説と簡易炭焼き技術』より)



平安時代～室町時代の水田



縄文時代後期の貯蔵穴



縄文時代後期の貯蔵穴



平安時代～室町時代の炉

